

●課題名：つくば型アグリビジネス経営体の育成

～農業者の知恵＝農業体験を新たなサービスとして商品化～

●普及指導センター名：茨城県県南農林事務所つくば地域農業改良普及センター

●活動事例の要旨

茨城県つくば市は、筑波研究学園都市の開発や、つくば科学万博の開催等に伴い、農村部における都市化・混住化が進んできた地域である。また近年のつくばエクスプレス開通による交通網の整備に伴い、都市化に一層拍車がかかり、都市部と農村部の距離が益々近くなっている。

地域の農業形態は、地産地消を活かした直売向けの少量多品目経営体为中心であり、普及センターにおいても、これらの直売所を中心とした都市型農業の推進を継続して支援してきた。しかし直売が増加し定着が進むと、農家1戸当たりの販売金額が頭打ちになる傾向がみられ、農家自身も所得の向上を喫緊の課題として強く認識するようになった。

このような背景から、普及センターでは農業者とともに、「つくば」ならではの人的・社会的・知的環境という地域資源を活用した、農業所得向上を図るための新たなビジネスモデルづくりを模索してきた。

特に、古くから普及活動の対象としてきた女性農業者グループに注目し、農業者の知恵や技術、農村環境を活かした農村地域活性化構想のアイデア出しを支援した。ここで得られた発想をもとに、「消費者と農業者が地域の中で共生・対流し、農業の癒し空間を消費者に提供する」という『つくば型アグリビジネス』ビジョンを策定した。

そして、このビジョンを市の地域リーダー組織である「つくば市農業・農村男女共同参画社会推進委員会」に提案し、その後関係機関と綿密に連携を図りながら、構想の柱となる農業体験受け入れの検討と試行を重ねた。

その結果、農業者が主体的に運営する農業体験受け入れ組織「つくば・いなか体験応援隊」が39戸の経営体により設立された。さらに価格設定などの体験受け入れノウハウやPRについて、関係機関と連携して支援した結果、11戸の経営体において新たなビジネス部門（農業体験等）の収入額が、目標として設定した100万円を上回った。

これらの効果もあり、応援隊に参加する経営体数も増加し（39→51経営体）、さらには、観光業者が応援隊に対して農業体験受け入れを依頼するようになるなど、今後、ビジネスとしての発展が期待できる新たな動きも見られる。

## 1. 活動のねらい・目標

### (1) ねらい

#### ア. 背景

つくば市は、茨城県南部に位置しており首都圏40～60km内にあり、常磐自動車道や平成17年に開通した「つくばエクスプレス」、「首都圏中央連絡自動車道」等の整備により、交通の利便性が向上し、都市化・混住化が急速に進行している。

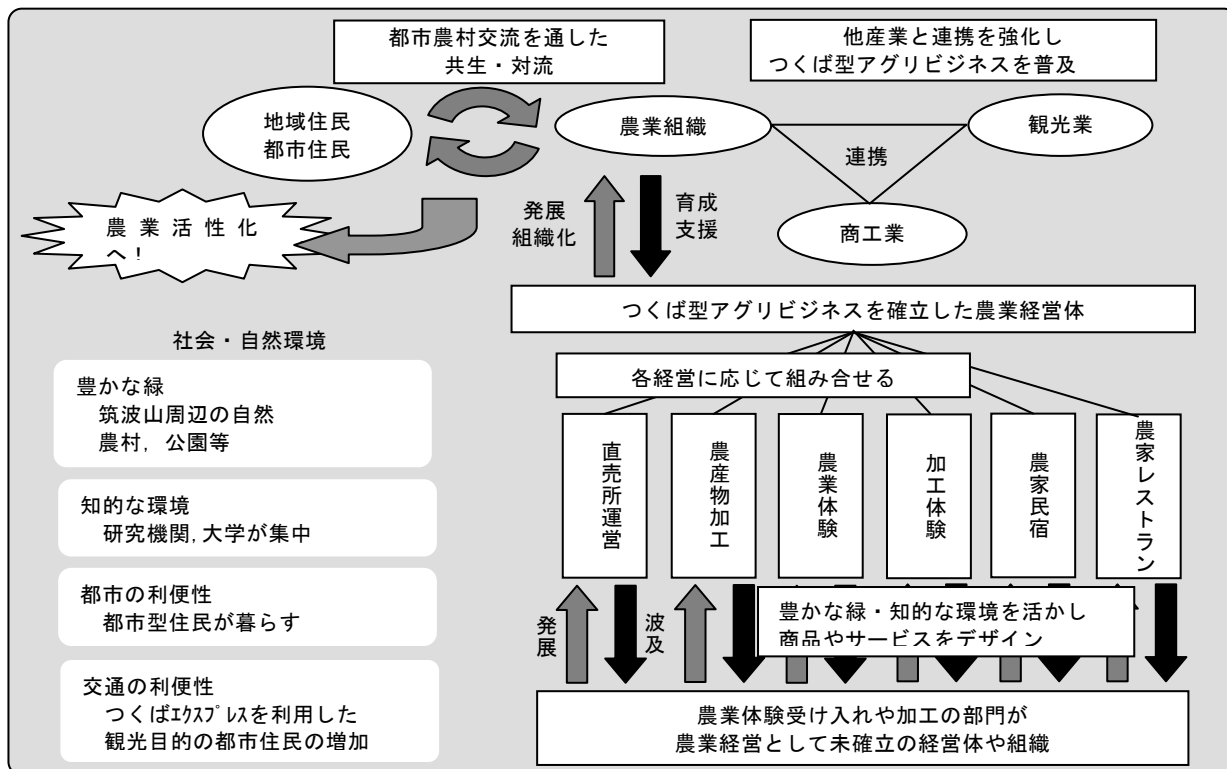
このような都市的環境を活かして、近年、農産物直売所やブルーベリーの観光農園などの取り組みが盛んになってきている。一方、基幹的農業従事者数は40歳未満が138人（3%）、65歳以上3,093人（65%）、販売農家所得100万円未満3,753戸（73%）、専業率9%と、後継者の確保はもとより農業経営の継続化が危惧される現状である。都市的環境と農業・農村環境を共生・対流させながら、農業者の技術・知識を活かした新規部門導入による農業経営の安定化が求められていた。

#### イ. ねらい

普及センターでは、農業の楽しみと癒しを消費者に提供するとともに、農業者の経

営向上に繋がる農業体験や農産加工などのサービスを新たな商品として経営に導入する「つくば型アグリビジネス」を提案した。消費者と農業者が共生・対流する農業体験等受け入れ体制の整備は、農業者が主体となり自らが運営・実践する組織の設立。モデル経営体の育成は、①農業体験（播種や収穫等の農作業や農産加工体験等）を実施する経営体数 39 経営体(平成 19 年時点)を 47 経営体に、②農業体験による収入 100 万円以上の経営体を 4 経営体(平成 19 年時点)から 10 経営体に育成することを目標とした。

都市型農業の経営安定と地域活性化をねらったつくば型アグリビジネスのビジョン



## (2) 普及活動の対象と経過

農業者の能力を発揮し、農業を地域の産業として発展させることを目指して活動していた「つくば市農業・農村男女共同参画社会推進委員会」を母体に推進を図った。委員は、旧町村や各組織から推薦されたリーダーの 24 名である。委員会で検討を重ね、「つくば型アグリビジネス」のうち、まず農業体験から取り組む方針が明確になり、地域への定着・波及のため、平成 18 年に委員会の下部組織として「農業体験受け入れ専門部会」を立ち上げた。その後、営利目的の活動を定着させるため、平成 19 年に農業者主体の独立組織「つくば・いなか体験応援隊」が設立された。

## 2. 活動の内容

### (1) 具体的な指導・支援

#### ア. つくば型アグリビジネスの構想づくり

##### ① 地域活性化のための夢描き

女性グループに、女性農業者の持つ技術や知恵、農業・農村の魅力を活かした地域活性化の夢描きを提案・支援した。この結果を、農産加工、農業体験、貸し農園、農家レストラン、農家民宿等を含んだ地域活性化ビジョン「つくば型アグリビジネス」として策定した。

#### イ. つくば型アグリビジネス受け入れの体制整備と組織化

##### ① 農業体験受け入れ試行と経済性についての検討

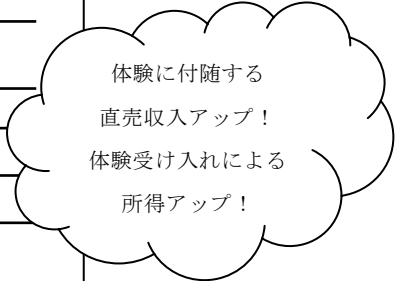
農業体験受け入れ等のつくば型アグリビジネスが経営として成立するかの確認のため

め実証を提案・支援した。女性グループが主体となり、消費者を募集し、大豆播種から味噌加工の農業体験受け入れ、採算性の検証を行った。（下表）

農業体験によって体験収入と直売収入が見込まれることが実証され、農業体験受け入れ等つくば型アグリビジネスの推進の根拠とした。

農業体験受け入れ実証の収支

	収入	支出
会費 (20名×6000円×2年分)	240,000	
種子・肥料・農薬費		27,973
味噌売上	222,268	
反省会（食事）代		5,100
管理労賃 (耕耘畝立・脱穀・肥料農薬散布)		28,000
差引残高		401,195
	労働 39.5 日 (8 時間/日) 時給換算 1270 円/時	



### ②つくば型アグリビジネス推進についての意識統一

つくば市農業課との打ち合せを重ね、農業活性化の方策としてつくば型アグリビジネス推進の意識統一を図った。農業体験受け入れのノウハウ等技術支援については普及センター、活動PR支援についてはつくば市で行う役割分担を明確化した。

農業者には、つくば市農業・農村男女共同参画社会推進委員会（以下、委員会）において、つくば型アグリビジネスについての具体的なビジョンと農業体験受け入れの試行結果等を提案して検討を行った。委員会としては、農業体験受け入れをメインに活動展開することで意識統一された。

### ③農業体験受け入れ経営体の組織化

個々の経営体での農業体験受け入れ活動を地域へ定着・波及させるため、第一歩として委員会の下部組織を提案し、その後に農業者主体での独立組織化を推進した。

まず、農業体験受け入れ希望経営体を把握するため、委員が推進役になり、戸別訪問を実施し、市の広報も2回活用して募集を図った。25経営体からの賛同があり、委員会の下部組織「農業体験受け入れ専門部会」を起ち上げた。農業体験受け入れの試行と平行して、営利目的の活動として定着・波及させるために農業者主体の独立組織の組織化を支援し、平成19年7月25日に「つくば・いなか体験応援隊（以下、応援隊）」が39経営体で設立された。

## ウ. つくば・いなか体験応援隊の活動支援と個別経営体育成

応援隊の設立後は、個別経営体の経営向上と組織活動の充実・強化を促進した。個別経営体については、多様な経営類型に即した経済性や適正な受け入れ手法について、応援隊については、ノウハウや受け入れ情報の共有・発信等の組織力強化と農商観光業者との連携について支援を行った。

### ①農業体験受け入れモデルの作成及び試算

農業体験受け入れを経営の一部門として導入する新しい取り組みであるため、既に農業体験受け入れを実践している2つの事例の経営の変化についてのモデル指標を作成し、農業体験受け入れ推進の啓発資料とした。

### ②重点支援経営体調査・支援

多様な経営類型の経営体のノウハウ蓄積と農業所得向上を図るため、重点支援経営体15戸を位置付け、農業形態、販売方法、労働時間、収入などの調査をし、経済性や適正な受け入れ手法について支援を行った。

また、農業体験受け入れのみではなく、農産加工や遊休農地の活用、農業体験農園の設置等、複合的つくば型アグリビジネスの農業経営の可能性について、(社)つくば研究支援センターの支援を受ける場の設定をした。

### ③価格設定と受け入れ情報の整理・発信

消費者の受け入れや観光業者への情報提供を迅速に行うため、市と普及センターが連携し、普及センターは多様な農業体験受け入れについて原価に基づいた価格設定を、市は個別経営体の詳細な農業体験受け入れ情報の発信を分担して支援した。

### ④農商観光連携セミナーの開催

つくば型アグリビジネスのチャンネルをさらに拡大するヒントを得るため、これまで連携のなかった農商工観光業者、関係機関（産業振興課、観光物産課）と連携した地域振興を協働する場として、市の農業課と（独）農村工学研究所と連携を取り、ワークショップ形式により講座を開催した。6回の講座開催に当たり、普及センターでは活発な意見が出るようにつくば市の農産物や加工品を教材として準備、参加者への根回しを行い、農業や個別経営体の動きについての情報提供をしながら、講座の充実を図った。

## (2) 普及活動の経過

	H17	H18	H19	H20	H21
つくば型アグリビジネス受け入れ体制の整備	アグリビジネスの構想づくり	組織化立ち上げ	独立組織化	組織活動強化支援 農商観光連携支援	農商観光連携支援
農業体験等受け入れ経営体の育成			モデル作成・提示	重点支援経営体調査・支援	重点支援経営体(地区リーダー)育成

## (3) 普及指導センター内における活動体制

農業者と商業・観光業の連携を目指し、農業体験を農業経営の一部門として位置付けた「つくば・いなか体験応援隊」のような組織活動支援は事例も少ないことから、つくば普及センター職員の約1/3である7名で「つくば型アグリビジネス推進プロジェクトチーム」を編成した。経営向上のための支援方法を研究し、農業体験に関心のある経営体への働きかけとアグリビジネス経営体の農業体験メニューの充実などのサービス提供向上の支援を行った。

つくば型アグリビジネスプロジェクトチームの設置 チーム長：課長 チーム員：7名 活動内容：育成方法等の普及活動の企画・戦略づくり	
野菜担当	農業体験等受け入れ経営体の育成
果樹担当	〃
花き担当	〃
経営担当	つくば型アグリビジネス経営モデルの作成 ・農業体験等の原価計算とそれに基づく料金設定
地域資源利活用担当	農業体験等受け入れ経営体の組織化 ・農業体験等受け入れメニューの充実と接遇について

## (4) 関係機関との連携

つくば型アグリビジネスの推進に関して、農業者の主体的な活動としていくため、関係機関とビジョンを共有して、応援隊を支援していく必要があった。

また、農業体験等受け入れは、観光業や商業等の他産業との関連も深いため、普及センターが農商観光関係者に呼びかけ、連携する機会を設けた。

## ア. 市農業課・東京事務所

応援隊の活動 PR は市が担当し、市の広報や TX の中吊り、新聞への投げ込み、小学校への投げかけ等を担当した。また、市の東京事務所を通して東京都内の公民館にパンフレットやチラシの配布を行った。

## イ. 市産業振興課、観光物産課

つくば型アグリビジネスのチャンネルをさらに拡大するため、普及センターが市農業課と連携して、農商観光業者が地域振興を検討する場を設定した。つくば型アグリビジネスを協働して進めるために、市産業振興課、観光物産課とも連携して、つくば市商工会・観光協会各会員のビジョンへの意識統一を図った。

## ウ. (社)つくば研究支援センター

個々の経営体の農業経営について、農業体験受け入れだけではなく、農産加工や遊休農地の活用、農業体験農園の設置等、複合的つくば型アグリビジネスの農業経営の可能性について、(社)つくば研究支援センターの支援を受けた。

## 3. 活動の成果

### (1) 成果

#### ア. つくば型アグリビジネス受け入れ体制の整備

① 農業者主体で実施した農業体験受け入れを踏まえ、組織の運営方針、運営方法等を検討し、組織化について推進した。その結果、グリーンツーリズムの県単事業を活用して、平成 19 年 7 月 25 日に経営体 39 戸で「つくば・いなか体験応援隊」を設立した。

#### イ. 農業体験等受け入れ経営体の育成

- ① 「農業体験へのニーズが高まっている」、「収入の向上に繋がる」という農業体験受入者からの情報と、つくば型アグリビジネスモデル事例の提示により、農業者に対する理解が進み、新たに農業体験に取り組む経営体が増加した。(39→51 経営体)
- ② 農業体験と農産物・加工品の直売活動を結びつけることにより、農家収入の向上が図られた。(重点支援経営体 15 戸のうちつくば型アグリビジネスによる農家収入 100 万円以上 11 戸、重点支援経営体の農業体験による総収入額：1,455 万円)
- ③ 農業体験受入メニューの充実やつくば市と連携した広報活動等により、農業体験参加者が大幅に増加し、都市と農村の交流が促進された。(農業体験参加者 5,100 人)

#### ウ. 農商観光連携の高まり

- ① 体験農園とレストランを組み合わせた事業計画がある。(2 件)
- ② 旅館業者から、宿泊と農業体験のセット化の希望が寄せられている。(2 件)
- ③ 価格と受け入れ時期の一覧表を作成し、団体からの農業体験受け入れ問い合わせに関して、試行的に旅行業者との提携を開始した。

農業体験受け入れの主な内容と状況

体験区分	内 容	参加者数	価格例
		H21	
野菜収穫体験	トマト・ピーマン等夏野菜収穫、きのこ収穫等	1,049	(トマト収穫) 体験料：500 円 収穫物：400 円/kg
水稻作業体験	田植え体験、稲刈り体験等	247	(稲刈り・ご飯付) 体験料：大人 2000 円、子供 1000 円
ブルーベリー収穫体験	ブルーベリー摘み取り体験、加工体験等	2,929	(ブルーベリー摘み取り) 入園料：500 円 収穫物：200 円/100g
果樹収穫体験	桃まつり、ブドウ収穫体験等	443	(ブドウ狩り) 入園料：500 円 収穫物：1500 円/kg

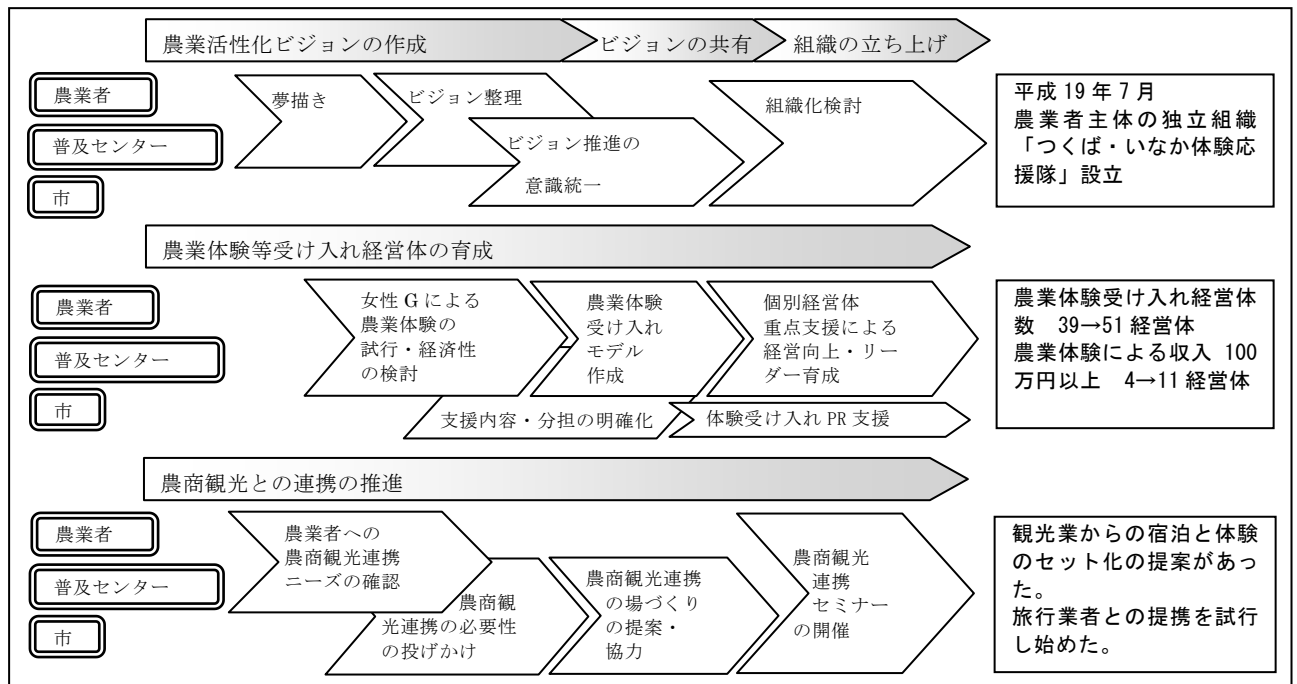
花・工芸・加工体験	リース・かご作り体験, 味噌加工体験等	432	(ジャムづくり) 体験料：1500円
計		5,100	

## エ. 農業の新たな動き

- ①つくば市内に農業体験への関心が広がるとともに、農業体験や農産加工及び環境を提供するアグリビジネスに魅力を感じて起業する新規参入者が誕生した。(2 経営体：建設業から 1 業者、観光摘み取り園から 1 園)
- ②つくば市以外の地域（茨城町）においても、応援隊を参考に農業体験受け入れに取り組み組織が設立された。

### (2) 目標達成のフローチャート

農業者の持つビジョンを引き出し、農業者主体で活動を推進できるよう普及が誘導し、農業者と関係機関の合意を確認しながら、計画と実践を積み重ね、目標達成に向け活動した。



## 4. 将来の方向と課題

つくば市はますます都市化・混住化が進む中、農業経営の生産段階から消費者を巻き込んだ活動は、農村環境の整備や農業活性化に繋がっていくと考えられる。よって、以下のことが課題であり、普及活動を通して成果の波及を図っていく。

### (1) 農業体験等受け入れ経営体育成と組織育成

個々の経営体の受け入れ可能な時期や体験内容などが異なるため、詳細で具体的な情報収集と発信が必要であり、現在試行中である。

### (2) 農業体験等受け入れ組織の異業種との連携推進

旅館業者や旅行業者から、宿泊と農業体験のセット化の要望が増えてきたため、これらの観光業者との連携を強化して、農業体験を新しい産業として位置付けていく。

### (3) 農村環境の維持と地域活性化

農業体験を通して、参加者と農業者が大家族であるかのようなコミュニティが生まれている。農業の魅力を見出した参加者から新規就農希望者も現れている。つくば市の農業体験は、農業経営の一部門としてだけでなく、農業者と消費者が共に築く地域づくりや新規就農者の育成の場としても活用でき、今後さらなる支援を継続していく。

(執筆者 杉山 恵乃)